



プログラム(1日目) 9月23日(金) 第1会場 大会議室1~3

●開会式 9:50-10:00

当番世話人挨拶 岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門/岩本内科医院)

代表世話人挨拶 稲葉 吉隆 (愛知県がんセンター病院 放射線診断科・IVR科)

● RS Rising Star Session 10:00-11:20

「輝け！期待の星」

本セッションは、年齢を問わず、気合の入った、生き生き輝いている先生方に現在のご研究を発表頂くセッションです。たくさんのご質問、討論でみんなで盛り上げていきましょう。

座長：菅原 俊祐 (国立がん研究センター中央病院 放射線診断科)

松枝 清 (公益財団法人がん研究会 有明病院 超音波診断・IVR部)

RS-1 『切除不能大腸癌患者に対する Bevacizumab 治療症例での皮下埋め込み型中心静脈カテーテル用ポート留置術後の合併症の検討』

田中 俊光 (久留米大学病院 がん集学治療センター/

久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

RS-2 『胃癌肝転移に対する肝動注 PCF 療法の有効性』

石井 政嗣 (久留米中央病院 消化器内科/栃木県立がんセンター 肝胆膵外科)

RS-3 『当院における高度脈管侵襲陽性肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療を併用した肝動注化学療法の治療成績』

東 瀬菜 (大阪国際がんセンター 肝胆膵内科)

RS-4 『進行肝細胞癌に対する New FP 療法における肝機能への影響：サスペンションとエマルジョンの比較』

松本 武士 (奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座)

RS-5 『切除不能な局所進行肝細胞癌に対する肝動注化学療法を用いた Conversion 後肝切除の治療成績』

後藤 祐一 (久留米大学 外科学講座肝胆膵外科部門)

RS-6 『BCLC stage B 肝細胞癌における Lenvatinib/TACE、Lenvatinib/HAIC の使い分け』

下瀬 茂男 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

RS-7 『肝細胞癌に対する肝動注化学療法 (New FP 療法) はアテゾリズマブ・ベバシズマブ併用療法の前治療として有用である』

鈴木 浩之 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

RS-8 『アテゾリズマブ+ベバシズマブ GTO コホートからみた動注化学療法の適応 -いつの時代も“最後の砦”を守るのは動注！-』

小尾 俊太郎 (帝京大学ちば総合医療センター 内科/

公益財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院 消化器・肝臓内科)

● **シンポジウム 1 11:20-12:00** (共催：株式会社ユー・ティー・エム)

「肝動注化学療法のエビデンス確立／臨床試験」

リザーバー&ポート研究会から世界に発信できる動注化学療法のエビデンスを作る事を目指し、参加者全員でディスカッション致します。

座長：小尾 俊太郎 (帝京大学ちば総合医療センター 内科)

『New FP 療法に関する前向き試験検討』

岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院)

『Low dose FP と全身薬物療法の併用療法の新規第3相試験の立案～ SILIUS 試験の結果を踏まえて～』

上嶋 一臣 (近畿大学医学部 消化器内科)

● **ランチョンセミナー 1 12:10-13:20** (共催：中外製薬株式会社)

「ガイドラインと職人性／来し方を振り返る」

建石良介先生は、肝癌ガイドラインの作製を行っている中心的な先生のお一人です。一方で、肝癌の経皮的治療を行い続けている職人でもあられます。ガイドラインと職人性という相反するテーマをどう共存させるべきかお聴きしたいと思い、ご依頼させて頂きました。工藤正俊先生は、日本の肝癌診療を世界に表現し、牽引され続けている先生です。その様な先生が、医師として何を思い、今に至るのか、どうしても聞きたくてご依頼させて頂きました。

座長：上嶋 一臣 (近畿大学医学部 消化器内科)

『Mastery と Standardization』

建石 良介 (東京大学医学部附属病院 消化器内科肝癌治療チーム)

『肝細胞癌に対する分子標的薬・免疫療法ならびに新規治療法の開発』

工藤 正俊 (近畿大学医学部 消化器内科)

● **01 一般演題 1 13:20-14:20**

「肝動注(肝細胞癌)」

座長：新関 敬 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

森口 理久 (京都府立医科大学 消化器内科)

O1-1 『Child-Pugh B の患者に対する modified-FP 肝動注化学療法の有効性と安全性の検討』
板野 哲 (久留米中央病院)

O1-2 『肝機能良好な切除不能肝細胞癌に対する肝動注化学療法 New FP とソラフェニブの治療効果比較』

城野 智毅 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

O1-3 『肝機能良好な高度門脈腫瘍栓を伴う肝細胞癌に対する肝動注化学療法 New FP とソラフェニブの治療効果比較』

岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院)

O1-4 『肝機能不良肝細胞癌症例における肝動注化学療法の治療成績 ～ワンチャン狙う肝動注～』

村田 慎一（愛知県がんセンター 放射線診断・IVR 部）

O1-5 『Atezo+Bev が効かない！大丈夫、New FP がありますよ。』

萩原 悠（順天堂大学 消化器内科）

O1-6 『肝動脈に留置した ReMAP の初期経験：留置方法および適応の検討』

大島 圭裕（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座）

● **共催セミナー 1 14:20-15:30**（共催：株式会社パイオラックスメディカルデバイス）
「New FP療法についてもっと知ろう」

肝動注化学療法のレジメの一つ New FP 療法は、非常に良好な成績を肝癌において示しておりますが、導入したくても敷居が高くて導入できないという声をよく聞きます。New FP 療法の治療におけるコツ、安全面におけるコツ、新規導入の行程を3名のプロフェッショナルにお話頂こうと思います。

座長：喜多 竜一（日本赤十字社大阪赤十字病院 消化器内科）

永松 洋明（順天堂大学医学部 消化器画像診断・治療学）

『進行肝細胞癌を治療へ導くための New FP の工夫』

永松 洋明（順天堂大学医学部 消化器画像診断・治療学）

『New FP が適切な臨床像』

新関 敬（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門）

『New FP の導入経緯と定着 ―実際の経験から―』

石原 朗雄（福山市民病院 内科）

● **「肝動注リザーバー療法に関するガイドライン」の今後と展望 16:30-17:00**
（共催：日本化薬株式会社）

『肝動注リザーバー療法に関するガイドライン』

米虫 敦（関西医科大学総合医療センター 放射線科）

『肝動注リザーバー療法の国際的認知度を高めるために―ガイドライン英文化の報告と今後の課題―』

上嶋 一臣（近畿大学医学部 消化器内科）

●特別講演 1 17:00-18:10 (共催:ポストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社)

田中利洋先生は、カテーテル治療に関わるデバイス開発を精力的に取り組み続けておられます。荒井保明先生は、日本の動注化学療法を始めとするカテーテル治療を牽引し続けて来られました。お二人の先生方が、医師としてどのような考えを持って“今”に至るのか拝聴したいと思います。お二人の演題タイトルは当番世話人の依頼によってつけさせて頂いております。

座長：西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線・核医学科）

稲葉 吉隆（愛知県がんセンター 放射線診断科・IVR科）

「創造性とは」

『リザーバー動注の新たな展開を目指して取り組んできた治療法・デバイス開発』

田中 利洋（奈良県立医科大学 放射線・核医学科）

「カリスマ性・リーダーシップとは」

『雪山の楽しさ』

荒井 保明（国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院 放射線診断科）

●イブニングセミナー 18:10-19:10 (共催:東レ株式会社/東レ・メディカル株式会社)

「System-i/ReMAPについてもっと知ろう」

板野哲先生が開発された System-i が田中利洋先生及び東レ・メディカル株式会社によって ReMAP という形で、全国、どの先生にも使えるようになります。新しいデバイスを学び、可能性をみんなで広げて頂きたいと思います。

座長：田中 利洋（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座）

板野 哲（医療法人いたの会 久留米中央病院）

『久留米中央病院バージョンの ReMAP 留置手法とその使い方 — System-i から ReMAP へ—』

板野 哲（医療法人いたの会 久留米中央病院）

『System-i 新規導入における障壁と対策、新規デバイス登場による今後の展望』

小岡 洋平（岩手医科大学医学部 内科学講座消化器内科肝臓分野）

『ReMAP の開発と初期臨床経験』

西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座）



プログラム(1日目) 9月23日(金) 第2会場 中会議室1~3

●世話人会 9:00-9:50

●スイーツセミナー 15:30-16:30

「教えて偉い人！」

本セッションは、新しい試みで、全員参加型の企画です。久留米の地元の美味しいスイーツと飲み物を堪能して頂きながら、若手や中堅の医師、そして企業の方々に日頃抱えている疑問をエキスパートの先生に気軽にプレゼンしてもらい、熱いディスカッションをして頂きたいと思います。

※コロナ禍でありますので、ご発言される際はマスクをして、スイーツを食べる際は黙食を徹底いただく事をお願いしたいと思います。

岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院)

向井田 瑛佑 (岩手医科大学 放射線科)

澤野 美由紀 (久留米大学医学部 放射線科)

吉川 達也 (京都府立医科大学 消化器内科)

木村 慎太郎 (国立がんセンター中央病院)

牧野 健治 (株式会社パイオラックスメディカルデバイス)

石井 朗久 (東レ・メディカル株式会社)

大和 文公 (株式会社ジェイ・エム・エス)

その他、発表予定あり。



プログラム(2日目) 9月24日(土) 第1会場 大会議室1~3

● 02 一般演題 2 8:40-9:40

「CVポート」

座長：山本 和宏（大阪医科薬科大学 放射線診断科）

吉田 哲雄（神奈川県立足柄上病院 放射線科）

O2-1 『体位変換にて不整脈症状を伴い、カテーテル先端が右房内へ移動した CV ポートの一例』

坪井 恵亮（京都府立医科大学 放射線医学教室）

O2-2 『断裂した CV ポートカテーテルをスネアカテーテルを用いて回収し得た 2 症例』

森山 悦子（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／

久留米大学病院 がん集学治療センター）

O2-3 『長期間留置された皮下埋め込み型中心静脈ポート抜去時に判明したカテーテル破損の 3 例』

長澤 恭平（愛知がんセンター 放射線診断 IVR）

O2-4 『臥位保持困難例に対する CV ポート留置の経験』

脇田 佑哉（済生会中和病院 放射線科）

O2-5 『CV ポート挿入後の FDG-PET/CT における異常集積の検討』

濱野 亮（岩手医科大学附属病院 放射線医学講座）

O2-6 『上腕 CV ポート留置後の感染による早期抜去のリスクに関する検討』

佐藤 健司（奈良県立医科大学 中央放射線部 IVR センター）

● シンポジウム 2 9:40-10:40

「CVポート エキスパートはなぜそれを使ってる？／改善点は？」

各社 CV ポートがありますが、年間数百例留置されているエキスパートの先生方に、自分たちが使う CV ポートの良さについて教えてください。

座長：森田 吉多佳（大阪中央病院 放射線科）

末吉 智（社会福祉法人恩賜財団 済生会中和病院）

『CV ポート（Power Port）のデバイスバリエーションとその利点』

久原 麻子（久留米大学医学部 放射線科）

『DewX Eterna について』

小寺 卓（近畿大学病院 放射線診断科）

『P-U セルサイトポート MS』

宗友 一晃（岡山大学学術研究院医歯薬学域 放射線医学 放射線科）

『強くしなやかな Orphis CV Kit® Neo：カテ損傷ゼロの実力』

菅原 俊祐（国立がん研究センター中央病院 放射線診断科）

● **共催シンポジウム 10:50-11:40** (共催：テルモ株式会社)

「CV ポート ワーキンググループ：リザーバー研究会で作ろう CV ポートのエビデンス ～研究会から世界へ向けて～」

CV ポートワーキンググループでは、CV ポートに関連する全国規模の前向き試験を計画しています。その全容について、お話頂く予定です。

座長：曾根 美雪 (国立がん研究センター中央病院 放射線診断科・IVR センター)
生口 俊浩 (岡山大学 学術研究院保健学域)

1. 代表世話人から
稲葉 吉隆 (愛知県がんセンター病院 放射線診断科・IVR 科)
2. これまでの流れ
生口 俊浩 (岡山大学 学術研究院保健学域)
3. 研究計画
西尾福 英之 (奈良県立医科大学 放射線・核医学科)
4. ワーキンググループメンバーによる討論・会場からの質疑応答
稲葉 吉隆 (愛知県がんセンター病院 放射線診断科・IVR 科)
新槇 剛 (静岡県立静岡がんセンター IVR 科)
田中 利洋 (奈良県立医科大学 放射線・核医学科)
佐藤 洋造 (公益財団法人がん研究会 有明病院 超音波診断・IVR 部)
西尾福 英之 (奈良県立医科大学 放射線・核医学科)
菅原 俊祐 (国立がん研究センター中央病院 放射線診断科)

● **議事総会 11:40-12:10**

● **ランチョンセミナー 2 12:20-13:30** (共催：エーザイ株式会社)

「これからの肝疾患・肝癌治療を考える」

川口巧先生は、今年、久留米大学消化器内科の主任教授になられた肝疾患に関連する栄養・代謝では日本を代表される先生で、私が尊敬する先生の一人で、ぜひ、皆様にもお話を聞いて頂きたくご依頼致しました。池田公史先生には、肝癌における動注化学療法をどのようにすれば世界に通用するものになるのか、日本を代表するプロフェッショナルのご意見を頂きたくご講演を依頼させて頂きました。

座長：高口 浩一 (香川県立中央病院 肝臓内科)
古賀 浩徳 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門/
久留米大学 消化器先端医療研究部門)

『肝臓学を友と愉しむ：MAFLD/HCC のチーム医療』

川口 巧 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

『肝動注化学療法が世界で認められるためには』

池田 公史 (国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科)

● 共催セミナー 2 13:30-14:30 (共催：株式会社メディコン)

「中心静脈関連IVRの合併症と対策、およびCVポート管理への看護師教育と患者指導」

小金丸雅道先生は、私が久留米大学の医学部生の頃から長身・イケメンで、カッコいい憧れの先生です。そして、カテーテルを用いた治療のエキスパートの先生でもいらっしゃいます。橋本香代子先生は、久留米大学病院の看護部の先生で、外来化学療法から教育指導まで造詣が深い先生でおられます。この様な機会にぜひ、お話頂きたいお二人でしたのでご依頼させて頂きました。

座長：浅井 望美 (国立がん研究センター中央病院 IVR 看護研究会)

佐藤 洋造 (公益財団法人がん研究会 有明病院 超音波診断・IVR 部)

『中心静脈関連 IVR の合併症と対策』

小金丸 雅道 (久留米大学病院 放射線科)

『CV ポート管理の看護師教育と患者指導』

橋本 香代子 (久留米大学病院 看護部)

● 06 一般演題 6 14:30-15:10

「動注関連(転移性腫瘍全般)」

座長：加藤 健一 (岩手医科大学 放射線診断科)

貞岡 俊一 (公益財団法人佐々木研究所附属杏雲堂病院 放射線科)

O6-1 『進行悪性腫瘍に対する間欠的経動脈治療のための大動脈留置型特殊リザーバーシステム、システム I-6 の新規導入に関する検証』

岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院)

O6-2 『切除不能大腸癌肝転移に対する全身化学療法無効後の肝動注 FOLFOX, FOLFIRI 療法の有効性』

板野 哲 (久留米中央病院)

O6-3 『肝内胆管癌に対するリピオドールを併用した肝動注化学療法 (New FP 療法) の治療成績』

太田 寛人 (順天堂大学 消化器内科)

● 特別講演 2 15:30-16:30 (共催：メディキット株式会社)

「肝癌動注事始／情熱とは」

Low dose FP を導入された田中正俊先生、動注化学療法をずっとやり続けて来られた板野哲先生に、医師として何を考え、何を見据え、治療に向かってきたかお話頂きたいと思っています。板野先生がお話する“情熱とは”というタイトルは当番世話人の依頼でつけさせて頂いたタイトルです。

座長：岩本 英希 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院)

下瀬 茂男 (久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門)

『肝癌動注事始』

田中 正俊 (社会医療法人弘恵会ヨコクラ病院 臨床研究センター・肝臓内科)

『情熱とは』

板野 哲（医療法人いたの会 久留米中央病院 内科）

● **当番世話人講演 16:30-17:00**

「リザーバー動注はすごい！」

当番世話人というとても貴重な機会を頂きましたので、せっかくなので話をさせて頂く機会を作らせて貰いました。私自身、癌に対するカテーテル治療に関してたくさんの師匠に導かれて“今”に至ります。これまで諸先輩方が育ててきたリザーバー&ポートをこれからどのように発展させていくべきか、Legacy（世代を通じて受け継ぐべきもの）& Creation（創造）という本会のテーマで考えていきたいと思います。

座長：鳥村 拓司（大牟田市立病院 病院長）

演者：岩本 英希（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院）

● **表彰式／閉会式 17:00-17:10**

挨拶：岩本 英希（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門／岩本内科医院）

佐藤 洋造（公益財団法人がん研究会 有明病院 超音波診断・IVR 部）



● 03 一般演題 3 8:40-9:40

「動注、その他」

座長：井隼 孝司（医誠会病院 放射線科）

小岡 洋平（岩手医科大学 内科学講座消化器内科分野）

O3-1 『脾癌 PD 術後の補助化学療法としての脾動脈コイル法を用いた肝動注リザーバー療法』

入里 真理子（奈良県立医科大学附属病院 放射線診断・IVR 学講座）

O3-2 『全身薬物療法不応後の大腸癌肝転移に対して肝動注化学療法：がん専門病院での取り組み』

佐藤 洋造（がん研有明病院 超音波診断・IVR 部）

O3-3 『動注リザーバー抜去についての検討』

新楨 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR 科）

O3-4 『リザーバー留置後に胃よりカテーテルの逸脱を認めた一例』

大丸 直哉（近畿大学医学部 消化器内科）

O3-5 『血管内異物除去鉗子 (vascular retrieval forceps) を用いた肝動注リザーバーカテーテルや CV カテーテルの先端位置調整』

寺嶋 千貴（兵庫県立粒子線医療センター 放射線科）

O3-6 『2021 年に当科で経験した、腹腔—静脈シャント術 (Denver shunt) の 8 例の検討』

大倉 哲郎（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門）

● 04 一般演題 4 9:40-10:30

「看護、その他」

座長：笹川 良子（愛知県がんセンター 中央病院看護部）

浜田 弘巳（北海道立子ども総合医療・療育センター 小児外科）

O4-1 『当院における system-i 動注関連処置の一部タスクシフトについて』

松本 純一（久留米中央病院 看護部）

O4-2 『繰り返す CV ポート感染のため PICC により HPN を継続し得た短腸症候群の 1 例』

兒玉 佐和（奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部）

O4-3 『中心静脈アクセスポート留置術に対する術前抗生剤投与の意義』

萩原 まさか（奈良県立医科大学附属病院 中央放射線部 IVR センター）

O4-4 『CV ポートの統一した管理～看護師の統一した管理を目指して～』

片岡 久美（三菱神戸病院 2A 病棟）

O4-5 『放射線防護板による術者被ばく低減効果に関する検討』

本田 宗一郎（久留米大学病院 放射線部）

● 05 一般演題 5 10:40-11:40

「症例報告(動注)」

座長：竹内 義人（市立福知山市民病院 放射線科・IVR センター）

O5-1 『TACE および分子標的治療薬に不応の進行肝細胞癌に対して Lenvatinib と New FP 療法を併用し病勢制御が得られた 1 例』

中村 剛大（久留米大学 臨床研修センター／

久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門）

O5-2 『簡易リザーバーを用いて NFP 療法施行後にアテゾリズマブ＋ベバシズマブ併用療法を導入した高度脈管侵襲を伴う肝細胞癌症例の検討』

出口 章広（香川労災病院 消化器内科）

O5-3 『TACE 不応にて atezorizumab + bevacizumab 併用療法、lenvatinib 療法に不応の stage IV -A 肝細胞癌に対して New FP 療法が奏効した 1 例』

古賀 雅也（久留米大学医学部 内科学講座消化器内科部門）

O5-4 『全身化学療法不応の総胆管浸潤を伴う進行肝細胞癌に対し、NewFP 療法を用いてラジオ波焼灼療法による conversion に成功した 1 症例』

丸田 享（さいたま赤十字病院 肝胆膵内科）

O5-5 『AP シェントを有する肝細胞癌に対して System-i によるバルーン閉塞下 TACE と 5-FU 持続動注を反復しシェント消失と腫瘍制御を得た 1 例』

蛭川 和也（熊本大学病院 小児外科・移植外科／久留米中央病院 消化器内科）

O5-6 『Atezorizumab + Bevacizumab 併用療法後に急速増大した VP4 巨大肝細胞癌に対して TACE、New FP 併用療法で病勢制御が得られた 1 例』

村井 麻衣（久留米大学病院 臨床研修センター）

● ランチョンセミナー 3 12:20-13:30 （共催:カーディナルヘルス株式会社）

CVポートカテーテルの感染をいかに減らすかというのは、非常に大きな課題です。エキスパートの先生にお話頂きます。

座長：松島 正哉（名古屋大学医学部 放射線医学教室）

『CV ポートにおける血流感染の実態と今後の展望』

鈴木 隆之（東京慈恵会医科大学 基礎・臨床講座 放射線医学講座）

● CV ポート講習会 14:30-16:20

本講習会では、CV ポートの留置から管理、看護に関してエキスパートの先生方にお話頂きます。質問コーナーや実際にポートや針などを触って頂いて、CV ポートについてより理解を深めて頂く機会になればと思います。

1) 講演 14:30-15:00

座長：佐藤 洋造（公益財団法人がん研究会 有明病院 超音波診断・IVR 部）

『留置法の実際』

新槇 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR 科）

『留置時の看護』

矢野 裕美（静岡県立静岡がんセンター IVR 科）

2) Q&A コーナー 15:00-15:30

『いまさら聞けない、でも今なら聞けるポートのQ&A ～聞くは一時の恥、知らぬは一生の恥～』

座 長：佐藤 洋造（公益財団法人がん研究会 有明病院 超音波診断・IVR 部）

回答者：新槇 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR 科）

矢野 由美（静岡県立静岡がんセンター IVR 科）

3) スタンプラリー 15:30-16:00

4) 受講証授与 16:00-16:20

協賛：S Bカワスミ株式会社

カーディナルヘルス株式会社

テルモ株式会社

東レ・メディカル株式会社

株式会社メディコン